

コールドジョイントの 止水工法

TOPICS

コールドジョイントの止水工法とは、アスファルト舗装の分割施工により発生する継目（コールドジョイント）からの雨水の浸入を防ぐ工法です。東日本大震災で崩壊した道路では、このコールドジョイントから崩壊している例が多く、止水不良は舗装体のみでなく道路本体の耐震性低下

に繋がることも危惧されています。また、コールドジョイントからの雨水の浸入によって基層部および路盤の脆弱化も問題視されており、さらに橋面舗装では床版の耐荷力低下への影響も懸念されています。

通常、コールドジョイントには、タックコートと呼ばれるアスファルト乳剤を塗布していますが、タックコートのみでは舗装体同士の接着性はあるものの止水効果が低いことが、これまでの当社の研究で判明してきました。本工法は、タックコートに替えて熱可塑性である瀝青テープを添付することでコールドジョイントからの浸水を防ぎ、さらに下層部へ添付した場合は、表層へのリフレクションクラックの発生時期を遅らせる効果も確認されていることから、道路のライフサイクルコストの低減に寄与できるものと確信しています。

